

先人の開拓スピリットを未来へつなぎ、新時代のリーダーを生み出すクリエイティブ・プラットフォーム

荒野を切り拓き、豊かな農地を作り上げた開拓の地・矢吹町の人々は不屈の精神と、いいものは柔軟に取り入れるオープンマインドの精神で東日本大震災にも果敢に立ち向かってきました。豊かな田園風景の中に新たに生まれる本施設は、実践的な学び、革新的で最先端の攻めの農業を牽引するリーダーを育てる農の拠点となるプラットフォームです。



前沢曲家集落—L字型の屋根が連なる風景—



エントランス広場のイメージ

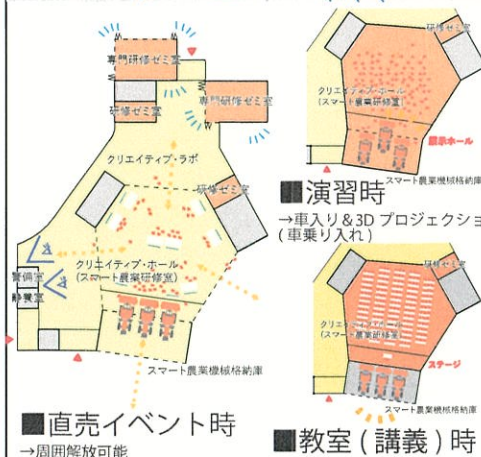


1 モードチェンジする<クリエイティブ・ホール> (課題1) 2 人と人、場、情報、共同体を有機的につなぐネットワーク型配置計画<フィールド・ネットワーク> (課題2)

先端技術の習得や多様な学びに対応できる柔軟な空間。



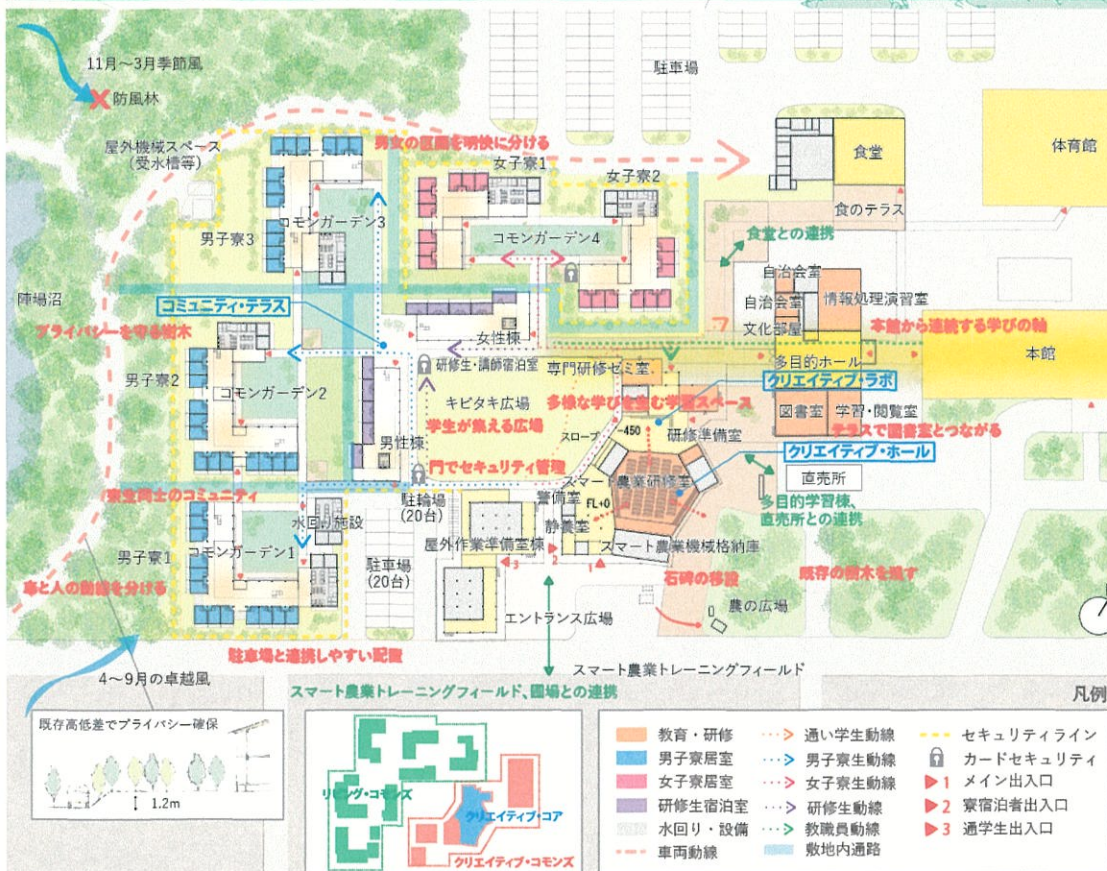
クリエイティブ・ホールのイメージ



1-1: 多様な学びに応じて変化するフレキシブルなクリエイティブ・ホール

- 農と情報をつなぐ知識・技術や経営管理などの実践能力を身につけるための中心的機能。
- 技術を駆使した多角形の開放的な大空間で、開口部を閉じれば多くのスクリーン壁となる。
- 複数の画像を同時に投影可能な空間で多様な立体的な学びを実現。
- 講義、直売イベント、オープンラボ、スマート農業機械を使用した演習等様々なシーンに対応可能。

ホール閉めた場合のイメージ

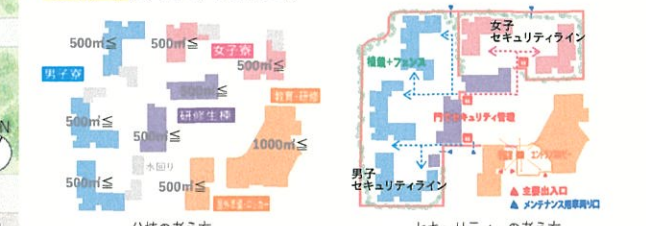


2-1: エリア全体と連携する拠点施設

- 大小の外部空間が有機的に繋がり、一体感がありながら、明確なゾーニング、セキュリティを確保。
- 生活空間と学習空間の切り替えを可能にする構成。
- 既存建物も含まれた<フィールド・ネットワーク>が日々の様々な活動を円滑にサポート。

2-2: 大規模木造建築を成立させる合理的な分棟形式

- 寮棟<リビング・commons>: 水廻りを除き 500㎡以下に抑え、構造計算を簡略化。
- 研修棟<クリエイティブ・コア>: 屋外作業準備室棟とクリエイティブ・コア棟を 1000㎡以下に抑え在来木造の分棟形式とする。
- 各棟を不燃の渡り廊下<フィールド・ネットワーク>で繋ぐ合理的な計画。



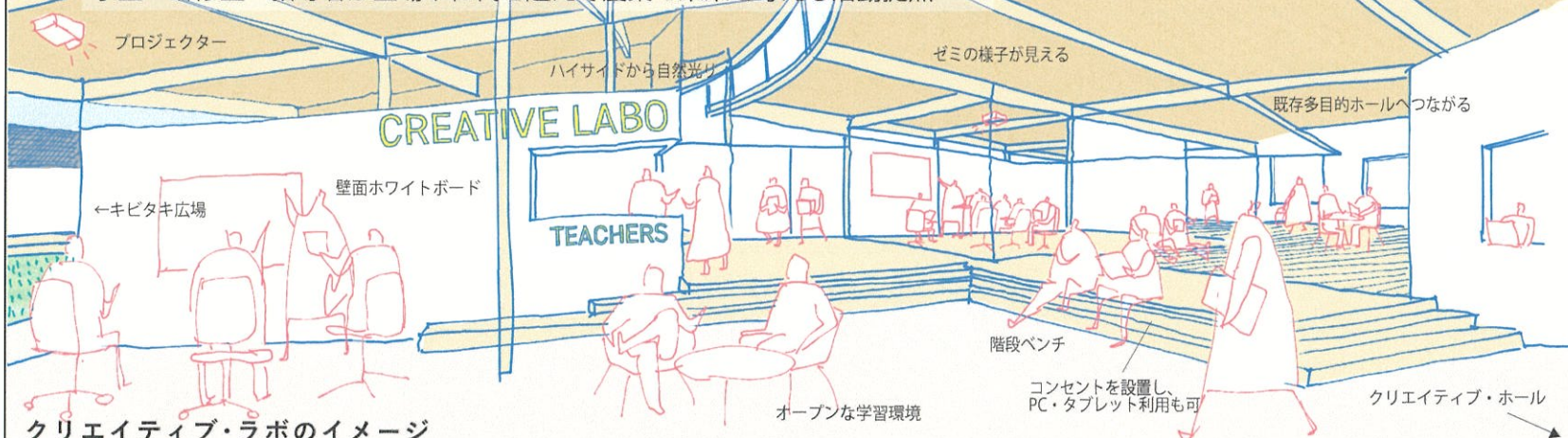
2-3 安心・安全なセキュリティ計画

- 寮生は<クリエイティブ・commons>の警備室近くに配置されたエントランスを経由する動線。
- 各寮には機械警備によるアクセスゲートを整備し、安心安全な生活環境を担保。

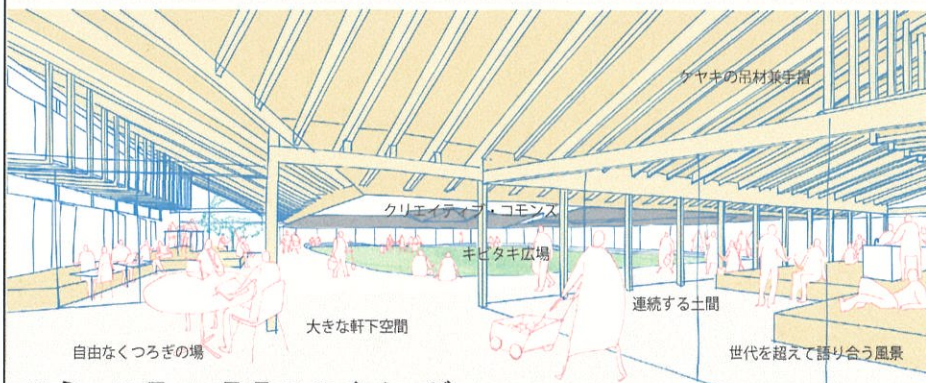
3 交流と学びと協働を最大化する「クリエイティブ・commons」

課題3

学生・研修生・指導者が立場や世代を超えて農業の未来を考える活動拠点



クリエイティブ・ラボのイメージ



コミュニティ・テラスのイメージ

3-1: 学習・協働の中心となる「クリエイティブ・ラボ」

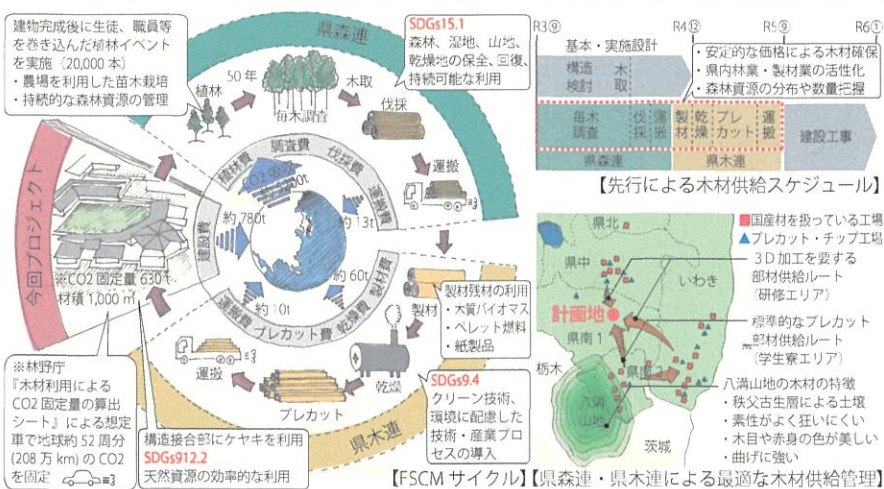
- 既存施設(多目的ホール、図書室、食堂)とクリエイティブ・ホールやゼミ室をつなぎます。
- カウンター、机、椅子などが配置され、**自立学習をサポートするアクティブな学習空間・情報交換拠点。**
- 床段差を活用したグループ発表、ゼミ室やクリエイティブ・ホールとつながり一体利用できる設え。
- 自由で多様な学習・協働の場、雇用就労のマッチング創出の場として創造性を高めます。

3-2: 交流を促す「コミュニティ・テラス」

- 男女の研修生棟の間に位置し、収穫した作物の調理や研修講師との懇親会を行うテラス。
- 学生、研修生、指導者の交流を促す、自由でくつろげる場所。

4 全国をリードし、発信する「福島型サステナブル・サイクル・マネージメント」

課題4



4-1: 未来につながる FSCM (Fukushima Supply Chain Management) の確立

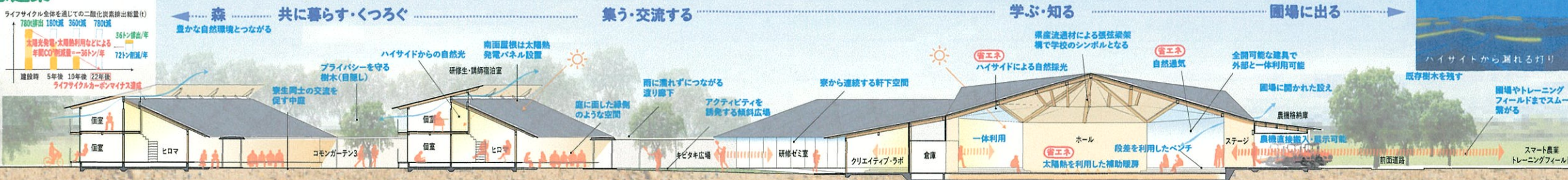
- 福島型供給連鎖管理の確立と県内外への発信を目指す。
- 川上・川中・川下における県森連・県木連との協働による県内保有林の分布と材積の調査。
- 最適な製材運搬ルートを選定。
- 林業の循環サイクルを含めた本計画のプロセスから**農業と林業を関連させた発見的な学びを創出。**

4-2: 県産流通材や技術の活用を最大化する構造

- 加工含めて県内で流通が完結する在来木造スケール材の活用。
- 寮棟：地元工務店でも施工可能な工法を採用。
- ホール：①シンプルながらも高度な技術を生かした構造。②木の上弦材と東+丸鋼の下弦材とリング張弦による張弦梁構造。③六角形平面に対し、コアとなるボリュームと光と風を取り込む開口面が交互に現れる④ダイナミックな構成により内外が繋がりに様々なアクティビティを喚起する。

4-3 環境負荷の少ない合理的な建築

- エネルギー使用の大きな給湯負荷を再生可能エネルギーの活用により Nearly ZEB を実現する。
- 建設時 CO2 発生量 780 トン -CO2 を約 22 年で LCCM (Life Cycle Carbon Minus) とするために、



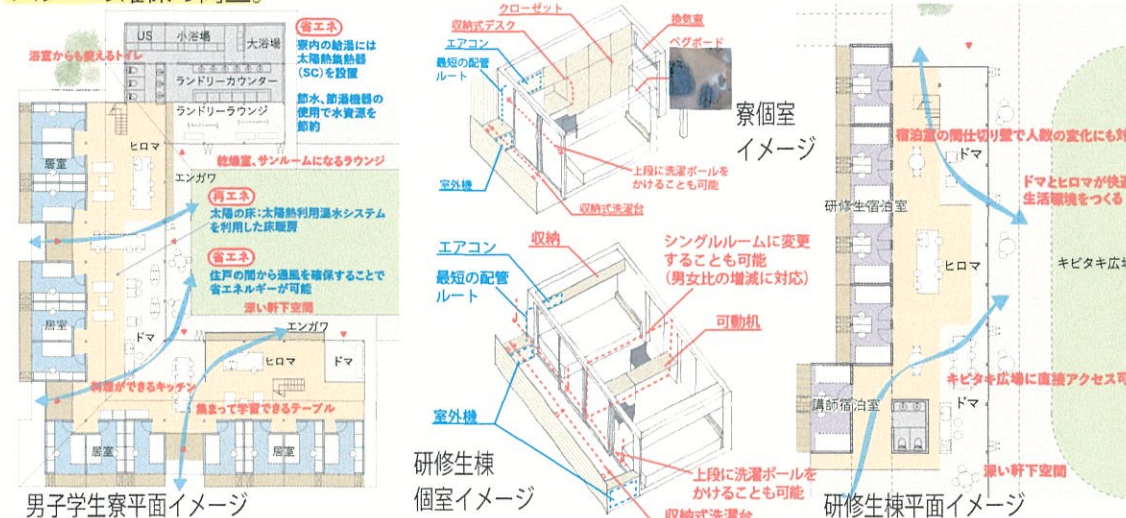
5 現代の農の風景を創出する、伝統的な知恵の継承

課題2 課題3 課題5

豊かな中にも厳しさのある自然環境に対し、ドマ・ヒロマ・エンガワなど豊かな中間領域・軒下空間を連続的に配置。日常的な活動や会話の中から学びや研究に繋がるきっかけをつくる、自由で発見的な空間を創出します。

5-1 教育の場ともなる軒の深い曲がり家

- 様々な生活の活動単位に適・コモンガーデンとつながるドマと・ランドリー・ラウンジ：した段階的な領域構成。**エンガワが、農と生活をつなぐ半洗濯という日常行為をコミュニケーションに繋げる、明るいサンルームのような溜まり場。**
- 集団生活の楽しさとプライバシーの確保の両立。



5-2 ワークショップの開催



5-3: 災害に強いフェーズフリーな施設

- 学生 / 職員 / 地域を巻き込んだワークショップの開催
- 植林イベントや巣箱の作成、家具の作成等木育に繋がる活動
- サイン、手摺、建具の取手、框等で伐採された既存の桜・銀杏の再利用による歴史の継承

